

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2671600258		
法人名	社会福祉法人洛和福祉会		
事業所名	洛和グループホーム亀岡千代川		
所在地	京都府亀岡市千代川町小林北田13-29		
自己評価作成日	令和元年10月1日	評価結果市町村受理日	令和2年2月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2671600258-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	令和元年11月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・普段から買物や散歩・ドライブなど外出する機会を作って支援している。特に個別外出に力を入れており、利用者の希望する食事や場所へ出掛けられるように支援しており、好評である。 ・バリアフリーでない建物を活かした生活リハビリも行っており、残存機能の維持を図っている。 ・地域との関わりを大切にしており、歌声喫茶を定期的に行ったり、地域の行事にも参加している。 ・職員関係も良好であり、楽しく仕事できる環境である。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当該事業所は地域交流を大切にしており、自治会に加入し回覧板で地域の情報を得て利用者と地域の清掃活動や夏祭りに参加したり、事業所で毎月1回歌声喫茶を開催し地域の方を招いて歌い方を教えてもらったりカラオケを楽しんでいます。また、行事に合わせてボランティアの訪問により楽器の演奏を楽しんでもらう等、地域との交流を深めて良好な関係を構築しサービスの向上に繋げています。日々の散歩をはじめ季節に合わせて初詣や桜の花見等の外出行事や個別で映画やカラオケに出掛けたり、遠方へ外出し海を眺めたり外食を楽しむ等、外出の機会を多く持てるように取り組んでいます。長く勤めている職員も多く馴染みの関係を築き利用者一人ひとりの気持ちに寄り添い、毎月の会議や日々の中で職員間で様々な意見を出し合い協力しその人らしく暮らせるように支援しています。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を基本にグループホーム独自の理念を掲げている。機会ある毎に職員間で確認しあっている。	事業所独自の理念を玄関に掲示して意識付けを行い、職員の入職時には理念に込めた思いを説明しています。カンファレンスで折に触れて法人の理念と共に独自の理念について話し合い、計画作成時にも理念を意識し、地域の中での生活を考えながら支援に取り組むことで理念の実践に繋がっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月一回GHで地域の方と一緒に歌声喫茶を開催している。地域の夏祭りに参加したり、清掃活動にも参加している。	自治会に加入し回覧板で地域の行事等の情報を得て地域の清掃活動や夏祭り等に利用者と参加し、夏祭りでは利用者全員分の弁当も用意してもらっています。事業所で毎月歌声喫茶を開催し、近隣の方を招いて歌い方を教わったりカラオケを楽しんでいます。また、クリスマスにはボランティアの訪問により楽器の演奏を楽しむ等、地域との交流を深めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター講座を地域包括センターの方と一緒に開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で得た災害や防犯の情報をサービスに活かしている。また情報を得てパンの移動販売を取り入れてサービス向上に取り組んでいる。	会議は2か月に1回家族代表や行政職員、町会長、住民代表、地域包括支援センター職員等の参加の下開催し、活動の報告や予定、事故報告等を行い意見交換をしています。市の行事の情報をもらい参加を検討したり、身体拘束についての対策委員会を合わせて実施し、会議を運営やサービスの向上に活かすように努めています。会議の議事録や案内は全家族へ送付し会議の内容を知ってもらっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	高齢福祉課や地域包括の方にも運営推進会議に参加していただき関係を築いている。	運営推進会議に市の職員の参加があり、事業所への理解を得ると共に意見交換しています。また、運営上の手続き等で市の窓口へ訪問し、行政との協力関係の構築に努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は施錠せず、行動を止めないよう見守りしている。	法人の研修計画に沿って職員代表が身体拘束や虐待等の研修を受け、事業所で内容を周知しています。会議等で言葉かけによる制止等の事例があればその都度話し合っています。外出希望の利用者には出来る限り職員が寄り添って散歩や買い物に出掛けて気分転換を図り拘束感の無い支援に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、ホーム内でも伝達講習をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、ホーム内でも伝達講習をしている。必要ある時に活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には十分な時間をとり説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	プラン見直し時に希望を聴いたり、面会時家族とコミュニケーションをとり希望を言いやすい関係を築いたり、年1回のアンケートを実施したりしている。	利用者の意見や要望は日々の関わりの中で聞き、好みの食事を提供する等その都度対応しています。家族の意見や要望は法人が年1回実施する満足度調査のアンケートや家族会、面会時等に聞いています。また、家族へ書類を送付する際に利用者の普段の様子を伝え、意見や要望が得られやすいよう工夫しています。出来る限り利用者や家族の意見や要望を運営やサービスに反映するように努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングで意見や提案を聴いたり、普段の業務の中でも聴く機会あり。	毎月の職員会議や日々の中で随時職員から意見や提案を聞いています。提案を受けて毎日の担当リーダーを決めて、その1日をリーダーが責任を持って行うべき業務を整理したり申し送りを行うことで業務改善に繋げる等、意見を運営に反映しています。いつでも管理者に提案をすることができる専用のノートを作ったり、年2回の定期的個別面談でも職員が意見や提案をする機会を設けています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談などで職員の話聴き、各自が向上心を持てるよう務めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加してもらい、現場でも必要なときその都度指導している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内・外共に機会があれば参加している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前は法人の入居相談センター相談員が窓口となりご要望をお聞きしている。入居面接時には管理者が関係作りに勤めている。入居初期も本人と話す機会をできるだけ多くもっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時には必ず挨拶し話しやすい環境にすることを心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内の入居相談センター相談員が関係者・本人・ご家族と話し合いをしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事を一緒に作り、食べ、掃除を一緒にし、お茶や休憩も一緒に行いながら関係作りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時・電話・郵便などで利用者のご様子を伝え、その上で共に支えられるように話し合いをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会者とも良い関係をつくり、また面会にきていただけるような雰囲気作りをしている。	友人や職場の元同僚等の面会時にはリビングや居室へ案内し椅子やお茶を用意してゆっくり過ごしてもらえるよう配慮しています。職員と個別で舞鶴へ出掛けて食事や海を見て楽しんだり、家族と自宅や通い慣れた美容室、法事、墓参り等へ外出する方もいます。友人や知人、家族からの電話を取り次いだり、通話を支援する等、馴染みの関係が維持できるよう努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り話題を広げたり、言葉の誤解が生じないように、フォローしながら楽しい雰囲気作りをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も電話連絡を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	人となりを理解し、思いに添えるよう努力している。	入居時に自宅や施設等の暮らしている場所で面談し利用者や家族から生活歴や身体状況、趣味、思いや意向等を聞き、以前のケアマネジャーや施設等からも情報を得て書面にまとめ職員間で共有しています。入居後は利用者との日々の会話で思いや希望を聞き、把握困難な場合は家族に相談したり職員間で本人本位に検討し思いや意向の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・今までのサービス提供者からも話を聞き把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で申し送りをし、一人ひとりの現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事前に本人・家族から希望を聴き振り返りシートも活用しながら、カンファレンスで意見を出し合い、Dr・Nsにも助言をもらっている。	アセスメントを基に作成した介護計画は初回は3か月で見直し、次回は6か月、その後は1年毎の見直しを基本とし、利用者の状態に変化があれば随時見直しをしています。介護計画の期間の中間でモニタリングを行い、見直し前には再アセスメントを実施してサービス担当者会議を開き事前に聞いた利用者や家族、医師、看護師の意見を反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌にて情報の共有をし、実践や介護計画の見直しにいかしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り本人や家族の希望に添えるよう心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会主催の活動に参加することができ、参加している地域の理髪店や商店にも出かけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に医療機関の希望を聞いており、本人・家族の希望の医療機関で支援を受けている。	入居時に今までのかかりつけ医を継続するか協力医の往診を受けるか選択してもらい、全員が月2回協力医の往診を受けています。週1回訪問看護師による健康管理を受け、緊急時は24時間対応で協力医に連絡し随時の往診も可能です。専門医へは家族や職員の対応で受診しています。また、利用者の状態や希望に応じて訪問歯科の口腔ケアや治療を受けている利用者もいます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度の訪問看護があり、そのとき看護師に相談しながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は早期に病院のMSWや看護師と連絡とりながら、関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にも説明はするが、実際に重度化し、終末期になってきたら、その都度話し合いをする。	入居時に指針を基に利用者が重度化した際の事業所の対応について家族に説明し、意向を確認しています。これまでに看取りの経験はなく病院や他施設への転居となっていますが、重度化した場合には医師や家族と話し合いながら方針を決め、出来る限り事業所で暮らせるように支援しています。また、法人での看取り支援の研修の受講も検討しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修や訓練を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署・消防団・地域の方々と合同訓練をおこなっている。	年2回いずれも消防署立ち会いの下、それぞれ昼夜想定で通報や初期消火、利用者も参加して避難誘導等の訓練を行っています。消防団や地域の方の参加を得て訓練を実施し、大雨で停電した際には市から安全確認の電話が入る等連携が図られています。ランタンや懐中電灯を購入し、水や3日分の食料、カセットコンロ等を準備しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティング時に言葉かけについて、振り返る時間を時々設けている。	毎月の会議で管理者が接遇や身だしなみについて話し振り返っています。基本は敬語を使い苗字で声かけを行い、利用者に応じて下の名前で声をかける等、分かりやすい言葉かけにも努めています。不適切な対応があればその都度管理者が注意し、希望に応じて入浴や排泄時の同性介助を行い羞恥心にも配慮した支援に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の話をしっかり聴き、選択できるような言葉かけを意識している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	就寝時間・起床時間などに決まりはなく、本人のペースで生活できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の希望に応じた理美容室・好みの衣類など選択できるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る限り利用者と献立を考え、一緒に準備している。	献立は毎日材料を見ながら利用者の希望も取り入れて偏らないように決め、食材は週1回業者に発注していますが利用者と同じ物に行くこともあります。利用者も食材を切ったり配膳等出来ることに携わってもらいながら作り、職員も一緒に同じ食事を摂っています。季節に応じておせちやちらし寿司を作ったり、ホットケーキやわらび餅等の手作りおやつを提供する他、出前で寿司やピザを取ったり、家族と外食に出掛ける等、食事が楽しめるよう工夫をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護ケアチェック表を活用し必要な方には水分チェック表なども活用し、管理している。		

洛和グループホーム亀岡千代川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立の方は声かけを行い、自力で無理な方は支援している。STとも連携をとって支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助の必要な方も、訴えあるときはその都度対応している。	利用者の必要に応じて排泄の記録を取り個々のパターンを把握し、一人ひとりに応じて声かけやトイレへの案内をしています。排泄用品の種類や支援方法等については職員間で検討し、支援を継続することで失敗を出来る限り減らせるように取り組み、排泄の状態の維持や改善に向けた支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をしっかりととり、食事での便秘予防を心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る限り希望に添えるようにしている。入浴剤など個別に支援している。	入浴は週2回を基本に間隔も見ながら午後の時間帯に入ってもらい、希望があれば午前入浴や回数を増やすことも可能です。入浴拒否が見られる場合は声をかける職員を代えたり日時を変える等の工夫をすることで無理のないよう支援しています。一人ずつ湯を交換し好みのシャンプー等を持ち込んでいる方もいます。ゆず湯や入浴剤を使用する等、一人ひとり会話も楽しみながらゆっくり入浴してもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自立されているかたは、自由に休憩され、介助の必要な方は、希望を聞いたり、様子をみながら居室で休憩していただけるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書や、Dr、薬剤師からの説明で確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活や会話の中から、張り合いや楽しみを引き出し、支援している。		

洛和グループホーム亀岡千代川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩・買い物・散髪・などはなるべくその日中に対応している。普段行けないところに関しては、個別外出や家族にお願いもしている。	日々散歩や買い物に出掛け、車椅子の方も玄関先に出て外気浴を楽しんでもらえるように支援しています。初詣や梅を見に出掛けたり、桜の花見、紅葉狩り等季節に合わせた外出行事も行っています。個別で舞鶴へ出掛け食事や海を眺め楽しんだり、映画やカラオケに出掛ける等、出来る限り外出する機会を多く持てるように支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持ちたい方には持っただき、買い物支援もしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望があればその都度していただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度・湿度・光の入り方にも注意をはらっている。	玄関に生花を飾り、フロアに利用者が書いた習字や毎月季節に合わせて利用者で作った貼り絵等の作品を掲示して温かい雰囲気作りをしています。テーブルや椅子は利用者同士の相性を考慮して配置し、毎日利用者も出来ることに携わりながら掃除や換気を行い快適に過ごせる共有空間を作っています。加湿清浄機も使用し、温湿度計を設置して利用者の体感も聞きながら室温度を調整しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関や、玄関前にもソファを置き、人気を感じながらも人と離れることができる場所にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ使い慣れたものを持ってきていただけるよう説明している。	入居時に馴染みの物を持ち込んでもらうように伝えテレビや棚、机、椅子、ソファ、家族の写真、仏壇等の持参した物を家族と職員で相談しながら配置し、入居後の生活を見て変更することもあります。冷蔵庫や編み物の道具、相撲のグッズ等を持ち込み楽しんでいる利用者もいます。利用者も出来ることに携わりながら毎日換気や清掃を行い快適に過ごせる居室となるよう努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	階段には両サイドに手すりを付け一人でも安全に上がり下りできるよう配慮している。		